

**FOR THE WELFARE AND
HAPPINESS OF ALL MANKIND**

世の人々の楽しみと幸福の為に

石橋正二郎
名誉市民顕彰会

平成29年度事業報告

2017

世の人々の楽しみと幸福の為に

石橋正二郎名誉市民顕彰会



正二郎と欧米のかかわり・選りすぐりの名品鑑賞 ー「じっと見る ブリヂストン美術館収蔵作品より」展ー

久留米市美術館 講演と見学会

平成29年10月13日・久留米市美術館にて開催

久留米市美術館にて、講演会及び展覧会見学会を開催しました（講師：森山秀子 久留米市美術館副館長兼学芸課長）。

館内の多目的ルームにてスライドを使用しての講演、その後開催中の「じっと見る ブリヂストン美術館収蔵作品より」展を鑑賞しました。

講演のタイトルは「石橋正二郎と欧米」。平成 29 年 4 月 5 日より 8 月 21 日まで、パリのオランジュリー美術館で「ブリヂストン美術館の名品ー石橋財団コレクション」展が開催されたことにちなみ、改めて正二郎と欧米のかかわりを紹介しようというものでした。

ブリヂストン美術館の作品がまとまってパリで公開されたのは、今回が初めてではありません。1962（昭和 37）年、正二郎が 73 歳のときに、パリ国立近代美術館で「東京石橋コレクション所蔵フランス絵画展」が開催されています。「このコレクションがはるばる海をわたって母国において展観され、多くの人に鑑賞の機会ができて喜ばれ、かつ日仏間の友好をさらに深める一つの好機会となったことは、まことに光栄であり、うれしいことでありました」という言葉を正二郎は残しています。彼は、文化が国際親善に果たす役割に早くから注目していた一人でもありました。



久留米市美術館 photo : harigane yousuke

「ブリヂストン美術館の名品ー石橋財団コレクション」展より 於：Musée de l'Orangerie オランジュリー美術館



▲「ブリヂストン美術館の名品ー石橋財団コレクション」展（於オランジュリー美術館）導入部
入ってすぐのところに、朝倉文夫作《石橋正二郎胸像》と青木繁《海の幸》が象徴的に展示された。

◀「ブリヂストン美術館の名品ー石橋財団コレクション」展（於オランジュリー美術館）入口



ポール・ゴーガン《馬の頭部のある静物》1886 年



アメデオ・モディリアーニ《若い農夫》1918 年頃



安井曾太郎《F 夫人像》1939 年

いずれも「ブリヂストン美術館の名品ー石橋財団コレクション」展終了後、「じっと見る ブリヂストン美術館収蔵作品より」展後期に出品されたもの。この 3 点のほかに、パブロ・ピカソ、藤田嗣治、ラウル・デュフィの作品も特別出品された。

ふるさと久留米に限りない愛情を注いだ 石橋正二郎を忍び

墓前祭

平成29年9月11日・千栄禅寺にて開催

寺町にある千栄禅寺にて、平成29年度の石橋正二郎名誉市民(以下正二郎と記す)墓前祭が、同氏の命日の9月11日に行われました。

会場の千栄禅寺には108人の市民が集まり、入口には生前の写真も飾られ、正二郎を偲びました。

会場では、献花等が行われた後、出席者を代表して名誉市民顕彰会の本村康人会長が「あなたは特に、愛郷心深く、ふるさと久留米に対して限りない愛情を注がれました。今日、久留米市は文化やスポーツ・高等教育の面で全国でも高い評価を受けていますが、あなたのご貢献を抜きにしてこれを語ることはできません」と墓前に語りました。



国内最初のタイヤ工場へ

ブリヂストン久留米工場見学会

平成29年11月24日・ブリヂストン久留米工場にて開催

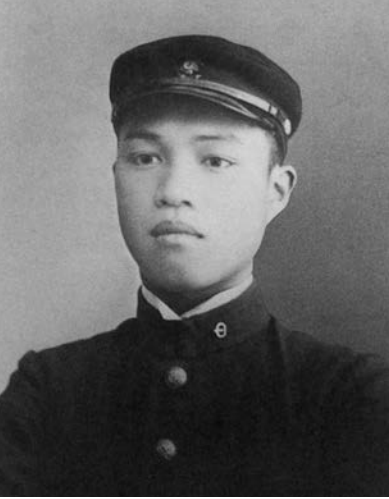
石橋正二郎は、昭和9年にブリヂストンタイヤ(株)久留米工場を竣工し、乗用車用タイヤの本格的な生産を開始しました。

現在、久留米工場は創業者の精神を受け継ぐ、ブリヂストンの「マザープラント」と呼ばれています。

見学会では、ブリヂストンの歴史や現況などの説明を受け、映像を見た後、専用デッキからの工場見学、創業当時の社長室やエントランスの展示スペースの見学などを行いました。



語り継ぐ 尊い理念や功績を深く心に刻む



石橋正二郎のあゆみ

1889(明治 22)年		2月1日、久留米市本町一丁目に初代石橋徳次郎・マツの次男として出生。
1892(明治 25)年	3 歳	徳次郎が仕立物業の「志まや」を始める。
1895(明治 28)年	6 歳	久留米市荘島小学校に入学する。
1899(明治 32)年	10 歳	久留米高等小学校に入学する。／図画の代用教員だった坂本繁二郎に図画を学ぶ。
1902(明治 35)年	13 歳	久留米商業学校に入学する。
1906(明治 39)年	17 歳	久留米商業学校を卒業。兄とともに家業を継ぐ。
1907(明治 40)年	18 歳	家業の仕立物業を足袋専業に改める。
1908(明治 41)年	19 歳	久留米市内に小工場を建て、機械生産を始める。
1912(明治 45)年	23 歳	九州で初めての自動車を購入し、宣伝に使用、効果をあげる。
1914(大正 3)年	25 歳	「志まやたび」を「アサヒ足袋」と改称。20銭均一の販売を実施。
1918(大正 7)年	29 歳	日本足袋(株)(後の日本ゴム(株))を創立して、専務取締役役に就任する。洗町の新工場が竣工する。
1923(大正 12)年	34 歳	アサヒ地下足袋を創製、販売する。
1928(昭和 3)年	39 歳	九州医学専門学校(現・久留米大学)創立にあたり、敷地と校舎を寄付する。
1929(昭和 4)年	40 歳	日本足袋(株)の倉庫を改造して、タイヤ試作工場とする。
1930(昭和 5)年	41 歳	自動車タイヤの試作を開始する。日本足袋(株)取締役社長に就任する。／純国産自動車タイヤ第一号誕生する。
1931(昭和 6)年	42 歳	久留米市にブリヂストンタイヤ(株)を創立、社長に就任する。
1932(昭和 7)年	43 歳	自動車タイヤの輸出を始める。
1934(昭和 9)年	45 歳	ブリヂストンタイヤ(株)久留米工場が竣工する。
1937(昭和 12)年	48 歳	ブリヂストンタイヤ(株)本社を東京に移す。
1938(昭和 13)年	49 歳	日本ゴム(株)創立20周年記念事業として武徳殿を建設し、久留米市に寄付する。
1940(昭和 15)年	51 歳	地下足袋の創製と量産、国産タイヤの貢献をもって緑綬褒章を受ける。
1941(昭和 16)年	52 歳	(太平洋戦争が始まり、昭和20年に終戦)
1949(昭和 24)年	60 歳	経団連常任理事に就任する。／天皇陛下久留米工場に行幸される。
1950(昭和 25)年	61 歳	グッドイヤー社の招きに応じて渡米、同社と技術提携の交渉を始める。日本ゴム工業会が創立され、会長に就任。
1951(昭和 26)年	62 歳	久留米大学理事長、共立女子学園理事に就任。
1952(昭和 27)年	63 歳	東京京橋にブリヂストンビル落成、ブリヂストン美術館開館。東京国立近代美術館評議員に就任する。
1953(昭和 28)年	64 歳	九州北部大洪水にて久留米工場一部浸水、製造中の自動車タイヤ用チューブを放出して人命救助する。
		ブリヂストンタイヤ(株)の本年度売上高は、100億円を突破し、業界首位に立つ。
1954(昭和 29)年	65 歳	久留米大学商学部の数地と建物の払下げ代金を寄付する。
1955(昭和 30)年	66 歳	久留米地区に従業員用アパート群、付属幼稚園、スポーツセンターなどの厚生施設完成。
		「ブリヂストン通り」を造成して久留米市に寄付。・ブリヂストン吹奏楽団久留米が結成される。
1956(昭和 31)年	67 歳	ブリヂストンタイヤ(株)創立25周年を迎え、久留米工場にて記念式典を挙行。記念事業として石橋文化センター(石橋美術館含む)、市長公舎を建設して久留米市に寄付する。／
		財団法人石橋財団を設立して理事長となる。／ヴェネツィア・ビエンナーレ展日本館を建設寄付。
		久留米市より名誉市民の称号を受ける。／久留米商業高校に講堂武道場を建設寄付。
1957(昭和 32)年	68 歳	この頃から久留米市の小、中学校21校にプールを建設寄付。ブリヂストンカンツリー倶楽部を創設する。
1958(昭和 33)年	69 歳	梅林寺外苑を造園して寄進する。／私学振興の故をもって藍綬褒章を受ける。／日本自動車タイヤ協会会長に就任する。
1959(昭和 34)年	70 歳	国立西洋美術館評議員、東京国立博物館評議員に就任する。
1960(昭和 35)年	71 歳	有馬記念館を建設、久留米市に寄付する。／フランス政府よりレジオン・ドヌール勲章を贈られる。(日仏文化交流の功績による)
1961(昭和 36)年	72 歳	イタリア政府よりメリト勲章を贈られる。(日伊文化交流の功績による)／長者番付で日本一となる。
1962(昭和 37)年	73 歳	石橋コレクション・パリ展開館式出席を兼ねて欧米に旅行。
1963(昭和 38)年	74 歳	ブリヂストンタイヤ(株)社長を辞任、会長に就任。社長に、副社長石橋幹一郎が就任する。
		石橋文化センターに文化ホール、文化会館を建設し、久留米市に寄付する。
		勲二等瑞宝章を受ける。
1964(昭和 39)年	75 歳	財団法人石橋財団より久留米大学附設高校の用地買収資金を寄付する。
1965(昭和 40)年	76 歳	石橋文化センターの開園10周年記念式典にて、久留米市議会から感謝決議、久留米市から胸像、久留米市民から銀製の感謝楯を贈られる。日伊協会会長に就任する。
1966(昭和 41)年	77 歳	久留米大学に医学図書館を建設寄付する。
		東京国立近代美術館竣工、寄贈式を行う。
1967(昭和 42)年	78 歳	石橋文化センターの日本庭園寄贈式に出席。最後の帰郷となる。
1969(昭和 44)年	80 歳	ブリヂストンタイヤ(株)会長辞任、相談役となる。／久留米商業高校に体育館建設費を寄付。
1971(昭和 46)年	82 歳	久留米市より米寿を祝って胸像を贈られ、五穀神社境内に建立される。／9月11日、東京日比谷病院にて死去。
1973(昭和 48)年	84 歳	従三位勲一等瑞宝章を追贈される。／久留米総合スポーツセンター県立体育館にて、市民葬が執り行われる。
1976(昭和 51)年	87 歳	遺骨は石橋家菩提寺の千栄禅寺、および東京都多摩霊園に納められる。

入会のごあんない

石橋正二郎名誉市民の偉大な足跡と、
尊い理念や功績を深く心に刻み、
次世代に語り継いでいきます。

石橋正二郎名誉市民の偉大な足跡と、尊い理念や功績を深く心に刻み、次世代に語り継いでいくため、石橋正二郎名誉市民顕彰会を平成22年8月に組織しました。
石橋正二郎名誉市民の理念を広く伝え、これからのまちづくりをすすめる事業を実施していきます。

石橋正二郎名誉市民顕彰会では、
多くの方々のご入会を歓迎いたします。

石橋正二郎名誉市民顕彰会の趣旨や活動に賛同し、同会の組織や活動を支えてくださる会員を募集しています。
活動報告としての会報(年1回)、行事のご案内をお届けします。

■ 申込方法

申込み用紙に記入の上、事務局へお申込みください。
申込み受付後、下記の銀行口座に指定の年会費をお振込みいただくか、または直接事務局まで納入してください。
申込み用紙は事務局に準備しておりますので、お手数ですがお問い合わせください。

■ 年 会 費

個人会員：	1口	年額	1,000円
団体・法人会員	1口	年額	10,000円

■ 振 込 先

口座名義：石橋正二郎名誉市民顕彰会
筑 邦 銀 行 本店営業部 普通預金 3012027
福 岡 銀 行 久留米営業部 普通預金 2755875
筑 後 信 用 金 庫 本店営業部 普通預金 1174358
西日本シティ銀行 東久留米支店 普通預金 1332464
※本人以外の名義で振り込まれる場合にはその旨ご連絡ください。

■ 申込み先・問合せ先

石橋正二郎名誉市民顕彰会
〒839-0862
福岡県久留米市野中町1015 石橋文化センター内
TEL 0942-33-2271 FAX 0942-39-7837

●頂いた個人情報は当会からのご案内のためのみに使用され、ご本人の許可なく第三者に開示されることはありません。

世の人々の楽しみと幸福の為に



株式会社ブリヂストンの創業者石橋正二郎は、1889 年(明治 22)、久留米市に生まれました。
家業の仕立物屋からスタートしたのち、地下足袋の創製による成功から、ついには自動車タイヤ国産化の成功などによって、日本のゴム工業の発展と技術革新に尽力しました。
名誉市民 石橋正二郎が心から願った言葉があります。
「世の人々の楽しみと幸福の為に」
これは、人を愛し、事業を愛し、郷里を愛した正二郎の経営理念であり、人生観でした。

石橋正二郎名誉市民顕彰会

名誉会長／大久保 勉
顧問／佐藤 晶二・永田 見生・飯笹 実
会長／本村 康人
副会長／橋本 政孝・廣田 りょう
理事／橋本 安彦・大津 秀明・龍頭 宏典
監事／土屋 尚之
幹事／穴見 英三・有馬 彰博・甲斐田 忠之
富澤 章・森山 純郎・米替 誓志

事務局／〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015
石橋文化センター内
TEL 0942-33-2271 FAX 0942-39-7837

ホームページアドレス http://www.shojiro-kenshokai.jp

石橋正二郎名誉市民顕彰会会報 2017[No.8]
平成 30 年 3 月発行

